

平成 27 年度 第 1 回大学地域連携強化プラン懇話会 会議録

- 日 時：平成 27 年 9 月 16 日（水）14 時 00 分 ～ 16 時 00 分
- 場 所：市役所 4F 行政委員会室
- 出席委員：青木委員、上田委員(加藤委員代理)、小沢委員、肥塚委員、武田委員、
近清委員、二神委員、福井委員、堀江委員
- 欠席委員：齋藤委員
- 事務局：山本副部長、古川参事、溝内参事、岡安主査、林沼主査
- 傍聴者：4 名

1 開会

【事務局】

皆様こんにちは。本日は、公私ともご多忙のところ、当懇話会にご出席頂き、誠にありがとうございます。

この懇話会では、本市が思い描いております、まちづくりを進めていくうえでの一つとしての、“産・官・学・民”連携によるまちづくりを進めていくためのプランで、とりわけ大学の「知」との連携、大学の「学生」との連携、また産業界も含めた連携など、これらとの連携を強化し、連携計画を立案することで、市民の方々を含めた、誰もが出入りでき、まちづくりについて知り、学び、言える、そのような「場づくり」を目指してまいりたいと考えておりますので、委員の皆様方にご意見を頂きたいと考えております。

本日はこれまでの取り組み報告や、今後の計画案について御説明申し上げ、御意見を賜りたいと思っておりますので、どうぞ、よろしく願い申し上げます、はなはだ簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

2 委員自己紹介、事務局紹介

3 座長、副座長の選出について

事務局が肥塚委員を座長に推薦し、一同了承。

肥塚座長より小沢委員を副座長に指名された。

4 意見交換(草津版アーバンデザインセンター設立の必要性について)

【事務局】

<資料について説明>

【座長】

南草津地域に拠点が必要であることは、第2次総合開発計画で言われていました。30年以上前になります。また、立命館大BKCキャンパスが開設し、南草津駅が開業してから20年になります。この南草津地域を今後どのようにしていくかは、草津市にとって大変重要な課題であります。

このことを踏まえ、草津未来研究所では南草津に関する調査研究を2件行ってきました。その結果、アーバンデザインセンター(UDC)という枠組みを使って新たな展開をしてはどうかということです。

このUDCを実際に進めていくのか、進める場合どのような内容で進めていくのかを検討するのがこの懇話会役割であると受け止めています。

【A委員】

<UDCについて追加説明>

UDCには、いろいろなパターンがあります。大きく分けると、産官学が資源を持ち寄っているところと、市の負担金を使って大学の専門家が常駐しているところの2つに分類できます。

場所として、人の往来があり、誰の目にもとまり、立ち寄りやすく、「広場」とつながっていることが重要です。

市民のいろいろなアイデアを実現していくためには、行政と大学のバックアップが重要になります。

【B委員】

大学も一市民として南草津のまちづくりをやっていきたい。それは、学生が住んで幸せになる街になるため、地域にともにかかわるということです。学生にとって良いまちにするためには、学生が地域の人と交流する必要があります。

また、学生、大学職員ともまちづくりにかかわりたいが、かかわり方が分らないという方もいらっしゃる。このような問題意識からUDCの考えが出てきた。

市役所に言うほどのことではないが、行政に「伝えたいこと」を持っている市民が多くいる。それを気軽に言える場所があることは重要である。

転勤族の人にも、草津で楽しい経験をしていただき、住んでよかったと思っ
てもらえるような仕掛け、きっかけを提供する場が必要である。

【C 委員】

南草津に住んで 12 年になるが、学生と接したのは 3 回しかない。交流する機会
が少ない。

学生と地域の交わりは、学生にとっても楽しいことになると思う。

【事務局】

学生の居場所づくりが重要だと考えている。草津市の昼間人口は 1.09 で、多く
の学生が昼間草津市におられるが、授業が終わると草津から出て行かれる。草津
にとどまってもらえる場づくりを考えていきたい。

学生の考えをまちづくりに取り入れていきたいと考えている。

【D 委員】

12 年前に草津で勤務した。南草津はマンションが増えたが、計画的に都市整備
がされてこなかったように思う。

学生は 4 年間草津で過ごした思い出が持てない。いろいろな経験をする場が必
要である。

卒業した後も滋賀に住んでいただけるようにする必要がある。そのためには働
く場が必要である。地元企業との連携が必要だと思う。

【座長】

滋賀県の学生のうち、特に立命と龍谷の学生は 90%が県外で就職する。もともと、
県外出身者が 80%を超えてはいるが、滋賀県や草津での経験・体験が非常に
少ない。

【D 委員】

県内の企業を知ってもらう機会がない。学生が県内の企業を知るための場が必
要である。

【C 委員】

転勤で転出した人が、外へ出て草津の良さが分かったとおっしゃっていた。未
来創造セミナーのような取り組みは大変良いことだと思う。

【E 委員】

昭和 57 年から南草津のまちづくりにかかわってきた。

SOHO(仕事場と住居が同じところにある)や起業する人が出てくる街をつくろうとしたが思うようにいかなかった。学生マンションばかりができた。

【F 委員】

立命館大学には3つキャンパスがあるが、学生と地域との関わりは、BKCが一番活発です。

学生がどのように地域とかかわっていくか、大学も含めてここで具体的に明らかにしていく必要があるとおもう。

UDCは、つくることが目的ではなく、学生が地域にかかわるための仕掛けの一つである。多くの学生がかかわる仕掛けについて、今後議論していく必要がある。

【G 委員】

草津は住みよい都市ランキングでは近畿でトップである。私も住んでいて、不満はない。

私の会社は、住民としての企業として、年間5,000人以上の見学受け入れや様々な環境活動などを行っている。

一般の会社員は、地域とつながらなくても十分生活ができてしまう。一日中会社のことばかり考えている。少し余裕をもってかかわることができればと思う。

【H 委員】

UDCについて、具体的なものがイメージできない。

一緒にやっという人がどのくらいおられるのかが気になる。

【座長】

何をしていくのが重要である。南草津に何が必要か議論していきたい。

【A 委員】

UDCは、集まった人たちによって、今までやってきたこと違うことが生まれてくるところなので、今までの何かをやるために集まる場所とは違う。

まちづくりには時間がかかるが、「先のことを考える場所」であると捉えることができる。いろんな人が今のしがらみを捨てて、それぞれの専門性を生かすといいのではないか。

【座長】

UDCには様々な主体が自由に発言できる場であることが重要である。

【B 委員】

転入してきた人が、草津を知らないまま転出していくことがある。地域のことを知る場が必要。

【D 委員】

ワンルームマンションの空き室が増加している。空き室の活用方法についても議論していただきたい。

【E 委員】

ワンルームマンションの経営にも問題があったのではないかと。

【D 委員】

学生の起業についての現状はどうか。

会社も作りやすくなっており、ファンドも集まりやすくなっている。

【座長】

最近は大変である。

【A 委員】

きっかけになるような場所が必要である。

【C 委員】

場所が重要である。場所は南草津で考えているのか。

フェリエが適していると思う。

【事務局】

南草津で考えています。

【F 委員】

作っても人が来ないといけない。

先進地の実情はどうか？

【事務局】

定量的なものはありませんが、人が集まりやすいよう様々な工夫をされている。

【座長】

知ってもらうための活動を行い工夫されている。

目立つ場所にある必要がある。また、人が集まる仕掛けが必要である。

【事務局】

場所については、委員がおっしゃったように大変重要であると認識している。

また、広場に面していることも考えていきたい。

今日の説明は、南草津と大学を強調したが、将来は多くの大学にも参加していただき、全市で考えていきたいと思っている。

5 閉会

【座長】

それでは今日の意見交換はこれで終わります。

6 今後の予定について

【事務局】

第2回は、11月5日(木)(15:00~17:00)にフェリエ 5F 大会議室で開催します。

以上。